

10月3日の通報以降、米側から得られた追加情報

- 貯水池を含む消火訓練エリアの位置は、横田飛行場の東側（別図のとおり）。
- 短期的な再発防止策としては、今月中に貯水池に溜まっている水を回収し、処分する。このほか、包括的かつ長期的な対応策を検討している。
- 貯水池のPFOS等の濃度は、2023年11月の測定値によると、PFOS及びPFOAの合計で1,620ng/Lであった。
- 貯水池等にPFOS等が残留していた理由は、貯水池の水には過去の消火訓練で使用した泡消火薬剤が含まれていたためであり、この水は貯水池の水位を下げるため定期的に回収され、適切に処分されている。
- 8月30日に消火訓練エリアから溢れ出したPFOS等を含む水については、横田飛行場の南西部（別図のとおり）に恐らく流出した。
- 消火訓練エリアから南西部への流出ルートは、消火訓練エリアから雨水排水系統に流入し、横田飛行場の南西部にある排水口から恐らく施設外へと流れ出た、本案の現地調査は継続中である。
- 基地外の流出した可能性がある排水口は、排水系統が地下深く埋設されており、立ち入るには特別な手段が必要であるため、その場所では調査を実施していない。
- 事案発生当時は台風の影響により、流出した水は回収されなかった。
- 通報までに時間を要した理由は、8月30日、基地の土木工事部隊が消火訓練エリアから水が溢れ出しているのを確認した後、流出した水の流れを追うために、現地調査を開始したこと。また、この調査はマンホールの位置から地下の排水管を手作業で確認することを含む複雑なものであり、現在も継続中であるが、溢れ出た水が横田飛行場外にまで至った可能性が高いと判断された時点で、米側は日本側に通報したためである。

